

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年11月26日 (2009.11.26)

【公表番号】特表2006-526027(P2006-526027A)

【公表日】平成18年11月16日 (2006.11.16)

【年通号数】公開・登録公報2006-045

【出願番号】特願2006-515229(P2006-515229)

【国際特許分類】

C 0 7 K 16/06 (2006.01)

C 0 7 K 1/113 (2006.01)

C 0 7 K 1/22 (2006.01)

A 6 1 K 35/16 (2006.01)

A 6 1 K 35/14 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 38/16 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 15/06 (2006.01)

A 6 1 P 7/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 5/14 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 16/06

C 0 7 K 1/113

C 0 7 K 1/22

A 6 1 K 35/16

A 6 1 K 35/14 Z

A 6 1 K 39/395 W

A 6 1 K 37/04

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 15/06

A 6 1 P 7/04

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/10

A 6 1 P 9/12

A 6 1 P 29/00 1 0 1  
A 6 1 P 19/04  
A 6 1 P 25/00  
A 6 1 P 1/04  
A 6 1 P 5/14  
A 6 1 P 17/06  
A 6 1 P 19/02  
A 6 1 P 17/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年10月6日(2009.10.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体培地中に懸濁または溶解した、少なくとも 1 つの抗体または自己抗体を含む組成物を提供する工程であって、前記抗体または自己抗体がその酸化還元状態の変化によって、可逆的に改変可能である結合特異性を有する工程、および  
前記組成物を前記抗体または自己抗体の結合特異性の可逆的な改変を引き起こすのに十分な酸化剤、または DC 電流に暴露する工程  
を含む抗体または自己抗体の結合特異性を改変する方法。

【請求項 2】

前記液体培地が、希釈または未希釈の全血、血清または血漿である請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記組成物が、液体培地中に懸濁または溶解した静脈内免疫グロブリン ( I v I g ) からなる請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

前記抗体または自己抗体が、 I g G、I g A または I g M アイソタイプの抗体である請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

前記抗体または自己抗体が、I g G、I g A または I g M アイソタイプの自己抗体である請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

前記酸化剤が、ヘミンである請求項 1 記載の方法。

【請求項 7】

前記酸化剤が、K M n O<sub>4</sub>である請求項 1 記載の方法。

【請求項 8】

前記酸化剤が、クロロフィルである請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

前記酸化剤が、電子供与体として働く他の分子に対する電子受容体として働くことによって還元される能力を有する分子である請求項 1 記載の方法。

【請求項 10】

生体液または生体液の抽出物を含む組成物を提供する工程であって、前記生体液またはその抽出物が、酸化還元状態での変化によって改変可能な結合特異性を有する結合部位を持つ少なくとも 1 つのマスクされた循環抗体または自己抗体を含む工程、  
前記組成物を、前記マスクされた循環抗体または自己抗体の結合特異性の改変を引き起こすのに十分な酸化剤または DC 電流に暴露し、それによって、循環抗体または自己抗体を

非マスク化する工程、および

前記組成物中の非マスク化循環抗体または自己抗体を検出し、または前記組成物から非マスク化循環抗体または自己抗体を回収する工程

を含むマスクされた循環抗体または自己抗体の検出または回収方法。

【請求項 1 1】

前記生体液が、希釈または未希釈全血、血清、血漿または胎盤の臍帯血である請求項 1 0 記載の方法。

【請求項 1 2】

抗体含有生体液、または生体液の抗体含有抽出物から、自己抗体を得て単離する方法であって、前記生体液またはその抽出物が、本方法を実施する前に、自己抗原への結合が不可能であり、したがって、レセプター - リガンド結合に基づくアッセイによって検出不可能である自己抗体を含むものであり、前記方法が、

前記生体液またはその抽出物を、自己抗体の結合特異性を改変し、前記自己抗体が、抗原に結合可能になり、それによって、レセプター - リガンド結合分離法によって、前記生体液またはその抽出物から検出可能および回収可能になるのに十分な、酸化剤、または DC 電流へ暴露する工程、および

前記生体液から、自己抗体を回収する工程

を含む方法。

【請求項 1 3】

前記生体液が、希釈または未希釈全血、血清または血漿である請求項 1 2 記載の方法。

【請求項 1 4】

生体液の前記抗体含有抽出物が、静脈免疫グロブリン ( I v I g ) である請求項 1 2 記載の方法。

【請求項 1 5】

前記酸化剤が、ヘミンまたはクロロフィルである請求項 1 2 記載の方法。

【請求項 1 6】

前記酸化剤が、 $\text{KMnO}_4$  である請求項 1 2 記載の方法。

【請求項 1 7】

試料中で検出可能な自己抗体の量および / または種類を決定するために、被験者からの血液、血清または血漿試料をアッセイする工程、

酸化剤または DC 電流に暴露することによって、被験者からの血液、血清または血漿試料を処置する工程、

処置した試料中で検出可能な自己抗体の量および / または種類を決定するために、被験者からの処置した血液、血清または血漿試料をアッセイする工程、および

未処置の試料中で検出可能な自己抗体の量および / または種類を、処置した試料中で検出可能な自己抗体の量および / または種類と比較する工程

を含む、被験者からの血液、血清または血漿試料にマスクされた自己抗体が存在するかどうかを決定する方法。

【請求項 1 8】

液体培地中に懸濁または溶解した、少なくとも 1 つの抗体または自己抗体を含む組成物を提供する工程であって、前記抗体または自己抗体がその酸化還元状態の変化によって、改変可能である結合特異性を有する工程、および

前記組成物を前記抗体または自己抗体の結合特異性の改変を引き起こすのに十分な酸化剤、または DC 電流に暴露する工程であって、前記結合特異性が特異的な 抗原 またはリガンドに関する結合能力を有さない前記抗体または自己抗体から、特異的な 抗原 またはリガンドに関する結合能力を有する血前記漿抗体または自己抗体に、改変される 工程

を含む抗体または自己抗体の結合特異性を改変する方法。

【請求項 1 9】

液体培地中に懸濁または溶解した、少なくとも 1 つの抗体または自己抗体を含む組成物を提供する工程であって、前記抗体または自己抗体がその酸化還元状態の変化によって、改

変可能である結合特異性を有する工程、および  
前記組成物を前記抗体または自己抗体の結合特異性の改変を引き起こすのに十分な酸化剤  
、またはＤＣ電流に暴露する工程、および  
改変された結合特異性を有する前記抗体または自己抗体を検出する工程  
を含む抗体または自己抗体を検出する方法。